科目名	病態学総論	講師	非常勤講師
履修時期	1年　後期	単位数	1
		時間	30

＜科目設定理由＞

病態とは、病気の状態のことであり、生体がその形態を変化させ機能に障害を起こした状態のことである。病態の成り立ちや機序、成り行きは疾患により異なり、全身に及ぼす影響からさまざまな症候や症状が現れる。観察をすることで体内でどのようなことが起きているのか、今後どのようなことが起きるのか予測する力を身につけることは重要である。
ここでは、疾患の原因と疾患による生体の変化の特徴、および形態・機能の病態の機序を理解することをねらいとして科目を設定する。

学習目標

1. 身体の障害された機能が全身に及ぼす影響を理解する。
2. 疾病の成り立ち、機序を形態面から理解する。
3. 器官・組織・細胞の形態変化と機能異常を関連付け理解する。

学習内容

1. 病理学で学ぶこと
（1）看護と病理学
　1）病理学とは
　2）医療と社会における病理学の役割
　3）看護における病理学の意義
（2）病気の原因
　1）内因
　2）外因
　3）公害病・医原病・職業がん
（3）疾病の分類と病理学の学び方

2. 先天異常と遺伝子異常
（1）先天異常とは
（2）遺伝子異常
　1）遺伝の生物学
　2）遺伝子と疾患
（3）遺伝性疾患
　1）単一遺伝子の異常による疾患
　2）多因子遺伝による疾患
（4）染色体異常による疾患
　1）常染色体異常による疾患
　2）性染色体異常による疾患
（5）胎児の障害
　1）出生前感染症
　2）薬剤やアルコールによる障害
　3）放射線による障害
（6）先天異常・遺伝性疾患の診断
　1）出生前診断
　2）新生児マススクリーニング
　3）DNA診断法
　4）遺伝子治療
　5）遺伝カウンセンリング

3. 代謝障害
（1）細胞の損傷と適応
　1）細胞損傷とその原因
　2）細胞の適応現象
　3）細胞の死
　4）変性
（2）物質沈着
　1）脂肪沈着
　2）細胞質内のタンパク質沈着
　3）間質のタンパク質沈着
　4）糖原沈着
　5）色素沈着
（3）脂肪代謝障害と疾患
　1）肥満
　2）動脈硬化症
　3）脂肪肝
　4）高脂血症
（4）タンパク質代謝障害と疾患
　1）ネフローゼ症候群
　2）腎不全と尿毒症
　3）高アンモニア血症
　4）痛風
　5）アミロイドーシス
（5）糖質代謝障害と疾患
　1）糖尿病
　2）糖原病
（6）その他の質代謝障害と疾患
　1）アミノ酸先天代謝異常症
　2）黄疸
　3）結石

4. 循環障害
（1）局所性の循環障害
　1）充血
　2）うっ血
　3）虚血
　4）側副循環による障害
　5）血栓症
　6）塞栓症
　7）出血
　8）梗塞
（2）全身性の循環障害
　1）ショック
　2）播種性血管内凝固症候群
（3）リンパの循環障害
　1）浮腫
　2）滲出液と濾出液

5. 細胞・組織の損傷と炎症と免疫、膠原病
（1）炎症
　1）炎症と原因
　2）炎症の経過
　3）創傷治癒
　4）炎症の治療
（2）炎症の各型
　1）滲出性炎症
　2）増殖性炎症
　3）特異性炎症
（3）免疫
　1）免疫記憶
　2）免疫に関与する細胞
　3）液性免疫と細胞性免疫
　4）能動免疫
　5）自然免疫
　6）免疫不全症

6. 感染症
7. 腫瘍
8. 老化と死

授業形態	講義
評価方法および評価の観点	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門基礎 「病理学」 医学書院
参考資料・図書	授業内で適宜提示する
履修上の留意事項・受講条件	特になし